

虹の架橋

今月の題字 森本伸幸さん

(愛知県岡崎市)

富弘美術館を囲む会愛知県支部長の森本さんは奥様の運転で富弘美術館へ来館されます。今回の公募展に入選した森本さんの作品を観ると苦難を克服した強さと明るさが伝わってきます。

虹の架橋検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

夕日が演出する極楽浄土の世界
小平の親水公園駐車場近くの正福寺には、上州花輪の彫刻師集団が彫ったとも言われている透かし彫りの欄間彫刻があります。天井には七十三枚の天井画があり、極楽浄土の世界を表現しています。冬から春にかけて、太陽が西に傾きかける時間には、薄暗い本堂の床に反射した光が欄間彫刻や天井画を浮かび上がらせます。三月二十六日迄の土・日午後三時から一般公開いたします。事前受付は不要ですが文化財保護協力金五百円をお願いいたします。お問合せは、みどり市観光ガイドの会 (0277-76-1270) 休日、小平の里 (73-2006) へ。晴天時のみの公開となります。



みどり市観光ガイドの会 (0277-76-1270) 休日、小平の里 (73-2006) へ。晴天時のみの公開となります。

みどり市の江戸彫刻を訪ねて
菅原神社の七福神と唐子彫刻
大間々町浅原にある菅原神社は、学問の神様・菅原道真公をお祀りしています。覆屋の内部の本殿は、華麗で精緻な彫刻が施されています。そこには子供たちが楽しく遊び戯れる姿や七福神と諸芸に親しむ姿が唐子(からこ)の彫刻として表現されています。普段は見ることができない菅原神社の特別公開は、二月十八日(土)と十九日(日)の九時四十五分から。文化財保護協力金として五百円をお願いしています。お申込は、みどり市観光ガイドの会事務局 (0277-76-1270) まで。定員になり次第、締切らせて頂きます。



子どもの表情に注目
福をもらす七福神唐子に託す思いは?

小耳にはさんだ いい話 (文責・菊川 幸子) 《330》

変わったから訪れた幸せ

今、富弘美術館では、第十回詩画の公募展が開催されています。その中で、愛知県岡崎市の友人・森本伸幸さんの入選作品が深く印象に残りました。

森本さんは、一九九六年、会社の人事でアメリカ支社に異動になり、家族と共にロサンゼルスに移住。その翌年に病院で「悪性リンパ腫」と告げられ闘病生活が始まりました。しかし、持ち前の明るさで病状は回復し、職場復帰を果たしました。それから四年後、帰国の辞令が出た森本さんは、帰国

の人事でアメリカ支社に異動になり、家族と共にロサンゼルスに移住。その翌年に病院で「悪性リンパ腫」と告げられ闘病生活が始まりました。しかし、持ち前の明るさで病状は回復し、職場復帰を果たしました。それから四年後、帰国の辞令が出た森本さんは、帰国

理由を「事故で重度障害者となり、妻の介助なしでは生きられない」と言いました。しかし、妻と行動するうち沢山の仲間と出会い、想像もなかった楽しい日々を送っています。もし、あの事故がなかったらと想像した時の気持ちを描きました」と言っています。

星野富弘さんは詩画集『あなたの手のひら』で「絵と文字という別のものを一枚の絵の中に描いていくうちに少しずつ分かってくる感じがしますが、絵も詩も少し欠けていた方がよいような気がしま

富弘美術館の詩画の公募展は二月二十六日迄です。是非、お出かけください。

五体満足のままだったら今頃何してるだろう
自由にバイクゴルフに酒
今は常に君に守られ生きている
大きく変わってしまった人生
だけど、共通の話題が増えた
会話が笑いが増えた
そして、出会いと友が増えた
変わったから訪れた幸せに感謝



初午(はつうま)とは、二月初の「午」の日です。江戸時代から綱市や足尾銅山街道の宿場で栄えた大間々の古い商家にはどの家にも屋敷稲荷様があります。足利屋は今年五月に創業百十年を迎えます。子供の頃から祖父や父が毎朝、神棚、恵比寿大国様、稲荷様、仏様にご飯と水をお供えしていたのを見てきたお陰で私もそれを毎朝の日課にしています。今年の初午は二月五日。初午の旗を揚げ、油揚げと七色菓子を供えます。毎年同じことを繰り返す、馬酔木を重ねてきています。

世界一小さな
定利屋
トイレ美術館

今月の絵《330》
オノサト・トシノブさん

世界的な画家オノサト・トシノブさんは、終戦後、シベリアに抑留され、足利屋先代の松崎福司らと共に生死の境をさまよった経験があります。オノサトさんは昭和二十五年から大間々中学校で美術教師をしていたことがあり、「絵くらはいは全部の子に良い点をやりたいね」と言っていたそうです。七十四歳で亡くなった後、奥様のトモコさんが「オノサト・トシノブ伝 生きること・そして生きることへの記録」という本を出版するために足利屋に何度かお越しになり、私の父と色々なお話をされていたことが思い出されます。

靖ちゃん日記

令和五年一月十日(火)
みどり市観光ガイドの会の仲間二十一人で、わんぱくのイルミネーション号に乗った。十九回目の今年も十七の全ての駅の駅舎やプラットフォームの電飾を浴びた。ちかちかホランテーパーを取り付けた。点滅する光は、「めい」を愛する人たちの心の輝きのようにも見えた。

大間々を十七時四十分に乗った列車は十八時十二分に終点の岡崎駅に着いた。ホームは幻想的な雪景色だった。見上げるとイルミネーションの先に星と月の煌めき宮城賢治の『銀河鉄道』を思い出した。帰りの列車ではビールを飲みながら弁当を食べた。難所の坂東カーブでは、渡良瀬川の河原もライトアップされていた。車内販売で「スベらな御守」を買った。レールのすべり止めの砂入れに入っている。口が軽い人にもスベらな御守の効果があるという。尻が軽い人には、「ホモリ」が必要なのかもしれない。

初午(はつうま)とは、二月初の「午」の日です。江戸時代から綱市や足尾銅山街道の宿場で栄えた大間々の古い商家にはどの家にも屋敷稲荷様があります。足利屋は今年五月に創業百十年を迎えます。子供の頃から祖父や父が毎朝、神棚、恵比寿大国様、稲荷様、仏様にご飯と水をお供えしていたのを見てきたお陰で私もそれを毎朝の日課にしています。今年の初午は二月五日。初午の旗を揚げ、油揚げと七色菓子を供えます。毎年同じことを繰り返す、馬酔木を重ねてきています。